

平成24年度
第3回 羽黒地域審議会
会議録（概要）

期 日 ： 平成24年11月26日（月）

場 所 ： 羽黒庁舎3階 集会室

平成24年度 第3回 羽黒地域審議会会議録 (概要)

○日 時 平成24年11月26日(月) 13時30分～

○場 所 羽黒庁舎3階 集会室

○出席委員(順不同)

佐藤 進、岡部 彌一郎、太谷 眞一、金野 信勇、島津 慈道、山田 鉄哉、齋藤 一、
山田 勝実、齋藤 良幸、本間 信一、庄司 晴一、小南 孝子、鈴木 史子、土岐 由紀、
加藤 欣也

○欠席委員 高田 志郎、齋藤 一、山口 平、阿部 良一、星野 博、富樫 篤

○市出席者

羽黒庁舎 支所長 武田 功之、総務企画課長 榎本 光男、
総務企画課主幹 佐藤 茂巳、市民福祉課長 佐藤 き江、
産業課長 岩城 公志、観光商工室長 五十嵐 満、
東部建設事務室長 高橋 親孝、東部税務事務室長 山口 弘男
総務企画課地域振興主査 佐藤 繁義、総務企画課主任 山本 務、
総務企画課主任 成沢 あかね、総務企画課主事 伊藤 寛実、
総務企画課主事 工藤 徳将
本 所 企画調整課長兼国際室長 高坂 信司、企画調整課主査 佐藤 豊、
企画調整課専門員 長南 徹、
市民部次長兼コミュニティ推進課長 門崎 秀夫、
コミュニティ推進課主幹 佐藤 正哉、コミュニティ推進課主査 清野 健、
地域振興課地域振興専門員 三浦 裕美

○次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 報 告

(1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について

(2) 鶴岡市地域コミュニティ基本方針の策定について

(3) 羽黒地域審議会提言書への対応について

(4) その他

4 講 演

講師 長尾 彰氏(文部科学省 熟議カケアイ民間ファシリテーター)

演題 「市民協働のまちづくりについて」

5 その他

6 閉 会

【会議の概要】

1 開 会 (13時30分)

2 あいさつ

3 報 告

(1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について
資料に基づき説明

○質疑応答

<佐藤会長>

私から一言お願いというか、先ほどの市長と語る会の話の中で少子化の問題について意見を交換したとお話しましたが、その中でこの中には11ページの方に少子化対策、婚活と載っておりますけれども、今本当に少子化が社会問題になっておりまして、行政としましても、如何にして人口を増やしていくか苦労しているという、広い施策の中で住んでもらおうという対策を立てておりますけれども、問題なのは、そういう人たちがなかなかその気になってくれないというところに問題がありまして、税金の問題とか子育ての施策とか色々やっておりますけれども、中々本人たちが踊らないとそちらへ行かないというのがありまして、婚活の場合中身はいっぱいあるのですが、それに行く機会が羽黒は特に少ない気がいたしまして、この間の話では櫛引の方では7組が成立したのか、ゴールインしたのかわかりませんが、そういった話があります。そういう方がいらっしゃれば、「婚活行ってこいや」と「参加してもいいや」と話をするとか、そういう方が周りにいらっしゃれば、婚活支援隊ではないですけども、こういった婚活に行ってみたらどうだやと参加していただいて、1人で頑張るではなくて、いい人を見つけるというのを運動ではなくて、進めていただいて、行政側でなくて、地元で行きやすくする。そういうことも大事だと思いますので是非ご協力をよろしくお願いします。

後日気がついたところ、もう少し意見を言いたいなという方がいらっしゃいましたら、ご意見は直接総務企画課へお願いします。

<高坂企画調整課長>

先ほども若干触れましたけれども、お手元の方にご意見記入できる用紙お配りしておりますので、今月中を目処にFAX等でお寄せいただければと思います。

企画調整課宛ということでよろしく申し上げます。

(2) 鶴岡市地域コミュニティ基本方針の策定について
資料に基づき説明

○ 質疑応答

<本間信一委員>

本間ですけれども、今説明を聞いたわけですが、旧鶴岡市と羽黒地域とコミセンではなくて公民館、あるいは集落単位。特に羽黒の場合は、小さい集落がいっぱいあって、72くらい。そこにそれぞれ区長さんが居て、地域を防災から行事から取り纏めをしているわけです。それで今聞いていますと、リーダーが居ないと色々な課題がある中で、何故広域的な地域コミュニティに統合するのか。羽黒の場合は範囲が広いせいもあるかもしれませんが、集落単位で色々やっております。また、行政からの連絡も色々あって、そんなに困っているという感じは無いのです。細かく言えば色々あると思いますけれども、この地域は特に農林水産業が主体でありまして、特に行政と一体となって農協の集まりも色々あるわけです。特に生産組合の集まりがあって、行政の集まりとなると、1年1回の総会とか何かの伝達くらいで、一番は生産組合の集まりが多くて、そこでコミュニケーションなり飲みケーションなりやっています、意思の疎通はしているかなと、私は感じているのです。それも後継者の関係で、年配者から若い人まで居るわけですが、色々な広範囲にわたる話題になるわけなので、特に心配していないと私は感じるわけですが、やはり、都会になればなるほど、そういった課題はあると聞いていますし、わかるのですが、今旧鶴岡市全部を当てはめるとなると、「広域的」とすると何がどういうことなのかと。小さい単位の中で周りが見えるほうがいいのではないかと私は思いますし、3つ4つ隣の集落の誰がどうしたというのは、噂話でいいと思いますけれども、特に困っている状況はないと私は思っているので、地域の特徴というものも活かした中でコミュニティが発展していただければいいかなと思うのです。

それから、気になっていたのはコミュニティを取り巻く環境という中で、思い当たる節はあるわけですが、6番目、農林水産業低迷とあるわけですが、何をもって低迷しているのかということもありますし、ここ2～3年は専門用語になりますが、所得補償などで、後継者も増えてやる気が出てきているという状況で、その為にそういった集まりなども活発に行われているということですので、その辺の認識も改めていただきながら地域の良さも充分活かした形での策定にさせていただければと思います。

以上です。

<岡部彌一郎委員>

私も少し農協に携わっていたことがあるのですが、集落座談会とか集落のかたまり、羽黒もかなり多いものですから、統合したらどうかという意見を若いときに若気の至りで言ったわけですが、これがなかなか歴史的なものもあって、隣の集落同士入り混じっていても1つになるということが難しく、出来なかったのですが、そういったことを合理的にやると謳っておりますけれども、これは一筋縄ではいきませんよ、なかなか。

行政の簡素化ということもありますけれども、こういうものは非常に難しいものであって、一本化するということにはいかないと思いますし、小さければ小さいなりに代表者をきちんと定めてやっているようですし、むしろ大きい集落の方がまとまりが悪いという、小さい集落の方がしっかりしているという、そういうこともありますので、その辺はもっと調べてやるべきだと感じます。

以上です。

<門崎市民部次長>

お二人の委員の皆さんからも、広域コミュニティ化のことでご意見をいただきました。決して単位自治組織を統合するとか組織計画を変えるという考え方ではございません。羽黒地域におきましても、71の単位自治組織がありますけれども、うち50世帯以下の自治組織が60あり、84%を占めています。また、30世帯以下で見ても36集落あり、半分を占めています。今後高齢化・人口減少する中で、単位組織単位で誰が事業を企画するか、あるいは協同して進めていったらいいのかなということが増えていくと思います。単位組織の機能の補完をするということで単位自治組織の合併という形ではなくて、広域的な自治組織を設置をして進めていったら有効性があるのかなというような認識をいたしております。櫛引地域におきましては、旧町村単位で昭和の合併時点では44集落あったのが、現在21集落までに抑えております。そういう方法があるのかわかりませんが、今の鶴岡市の地域区域について、広域コミュニティ組織の育成を掲げていることです。決して単位自治組織についてどうのこうのということではございません。このことについて重要性も認識しておりますし、引き続きまちづくりの単位には相違ございませんので、そここのところはよろしくお願ひします。それぞれの地域で自治組織形態が異なっております。他の地域でも旧町村の地区がありますけれども、羽黒の地区公民館は4つございますし、形態も違いがありますし、羽黒の地区公民館でやっている事業は藤島と比べてもやりかたも内容も違っております。そういう地域地域の実情とか相違、特徴については生かしていく必要がありますので、地域ごとの計画策定というものもやっていきますので、そういう点でご理解をいただきたいと思ひます。

<清野コミュニティ推進課主査>

農林水産業の低迷という表現についてご指摘あったと思ひます。各地域ごと地域の環境に応じて、それぞれの環境で頑張っている農業の関係者がいるということは十分承知であります。農村集落における人口減少といったことは実態としてはあるのではないかと考えております。なぜ人口が減少していくかといいますと、そこで見出す付加価値が十分ではないのではないかとと思ひます。そういうことを踏まえて農林水産業の低迷というな、乱暴な表現かもしれませんが、そういうことが取り巻く環境としてあるのではないかと考えているところです。羽黒地域のことでないのかもしれませんが、全市的な傾向としては、

担い手不足や人口減少といったことが大きな課題になっているのではないかと考えております。

<本間信一委員>

低迷ということになってくると、さっき言われた通り婚活にも影響しますので、やはりこれは削除していただけるとありがたいです。農林水産業一次産業でも影響が大きい。今はそういう感じがしませんけども、私はそのようにお願いできればと思います。

<庄司晴一委員>

鶴岡市コミュニティの基本設計についてなかなかうまく、分限的にもうまくいくかと思っております。その中で政策の17ページありますけども、地域課題の解決について地域コミュニティ支援の推進について、その中で施策の概要の中で地区担当職員制度の導入について考えられているようですけども、中身の検討というのはこれからだと思いますけども、市からの連絡係みたいな格好では、制度そのものがうまくいかないと考えてます。実質私自身も農協で今の集落営農のことで携わったことがありますけども、集落の中の状況なり問題なりある程度頭の中に入れていかないとなかなかそういったもの話も含めて進んでいかないので、その辺これから検討の中で考えていただければと思います。

<齋藤一委員>

関連した政策がありましたので質問させていただきます。20ページの広域コミュニティ活動の拠点の整備ということで現在、地区公民館の関係。地域活動センターという部分で明記なっていると思いますけども、この辺の推進の具体的な部分。今後何年度ぐらいから進めていくという部分。できればと思いますけども。名称が変わっても地域では活動を十分やっているとしたいと思いますけども、その辺の具体的な年度がわかれば示していただきたい。

<門崎市民部次長>

広域的なコミュニティ活動拠点施設として、現在の地区公民館を仮称でありますけども地域活動センターとして発展的に移行するという予定であります。現在藤島地域について、より先行的に、(昭和の合併時の)旧町村単位に地区公民館がございまして、その運営組織、公民館運営協議会と自治会長さん方の組織とで藤島地域においては26年度の移行に向けて現在協議を進めているところであります。なお、羽黒・朝日地域におきましても、27年度の移行地域の皆様方のご意見を聞きたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

(3) 羽黒地域審議会提言書への対応について

資料に基づき説明

<佐藤会長>

こういった審議してきた経過を去年12月に提言してきたわけですが、その後の進捗度がわからないという形がありまして、ちょっと依頼をしまして、わかりやすくないかという話がありまして、こういった形である程度明確に進行状況がわかるのは大変良いことではないかと思えます。更なるステップアップを目指してという形で推進してきましたが、この表を見ながら進捗度を確認して今後とも協力して推進していくという形になると思えますので、我々提言した以上は結果まで追いかける・見つめていくという形でやっていきたいと思えますので、担当部署もこういった形ですっきりと見える形にさせていただきましたので、「とりあえずここまでわかった」となりましたのでよかったですと思えます。他にご意見ありますでしょうか。

<岡部彌一郎委員>

8月に高寺の加藤さんが高寺八講の現状の悩みをちょっとお話していたようですが、それらについて私は資金面の援助などは無いのかというお話をしたんですけども、現実には悩んでいることは理解できるですけども、それに対しこれからどう取り上げていくのかということがここに全然載っていないものですから、その辺のことをこれからどのような対応をとっていけばいいのかをお聞きしたいです。加藤さんが要望しますということではないようですが、非常に悩んでいたお話をしていました。高寺八講についても振興の対象になるのではないかと私は理解したんですけども、どうでしょうか。

<榎本総務企画課長>

今回まとめさせていただいた進捗状況ですけども、これはあくまで昨年度と一昨年度の審議結果をまとめた提言書に基づいた進捗状況の報告でありまして、今岡部さんから言われたように今年度の審議会の中で出された質問とか意見とか、伺ったものに答えさせていただくものもありますが、それはそれで別個に対応させていただきますので、そのような形でよろしく申し上げます。

(4) その他

<榎本総務企画課長>

報告2点ほどあります。一つは羽黒庁舎の建設についてでございます。今年度基本構想の策定をさせていただくということで、全市的な関係の部長級で組織する庁舎の建設検討本部。その下に、関係課長級で組織する庁舎建設の幹事会を立ち上げさせていただきます。先月ですが、第1回の幹事会を開催させていただいております。オブザーバーとして山形大学の東北創生研究所。こちらのほうにご依頼申し上げておりまして、手向ご出身の齋藤

学准教授を調整役としてお願いしております。

それから、今週と来週ですが、先進地の事例の視察として酒田市の松山及び八幡の総合庁舎。こちらの方を視察、制度手法等を参考にさせていただきます。今後でございますが、年内中に第2回の幹事会、第1回目の本部会議の開催を予定させていただきます。作業の進展に合わせて、各段階で委員の皆さま方のご意見を賜りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。できれば何とか基本計画・実施設計、最終的には建設ということで平成27年頃から何とか取り掛かればいいのかなと考えております。

もう1点ございます。今年度に入りまして、審議会で昨年度のテーマを深掘する形でご提案を申しあげましたところ、金野先生から「地域共創」この言葉の方が相応しいのではないかとということでご意見を賜りまして、それについて検討させていただきました。榎本市長が市政への基本方針に基づいて、鶴岡ルネサンス宣言の中で市民、地域、行政の協調・協力、協働ではありませんが、それによる総合力発揮を掲げておりまして、その方針に沿って協働のまちづくりを。具体的には例えば鶴岡パートナーズ事業・除雪パートナーズ事業、市民と行政の協働のまちづくり事業を進めているところであります。このように、市としては何とか「市民協働」という言葉を市民に周知させたいという意向もございまして、なんとか市民協働で進める羽黒観光というテーマでこれから以降の審議をよろしくお願いいたします。

4 講 演

講師 長尾 彰氏（文部科学省 熟議カケアイ民間ファシリテーター）

演題 「市民協働のまちづくりについて」

5 その他

6 閉 会